

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三方原 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 2 月 14 日 （ 金 ） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	サーラ音楽ホール多目的室3
3 参加者	37名 協議体委員19名（地区8名、事業所等11名） 関係機関18名（高齢者福祉課1名、長寿支援課2名、長寿保険課（北）1名、コミュニティ担当1名、包括三方原6名、市社協地域支援課1名、市社協浜松地区センター2名、市社協北地区センター4名）
4 協議の内容	担い手の確保につながる持続可能な地域づくりを目指して
1. 開会あいさつ 会長 2. 自己紹介 新任委員、関係機関 3. 協議内容 ①三方原地区社協「移動支援」進捗状況 （報告） ・ R6.6 月スタート 当初目標；年度末までに 200 回実施（保険／日一人の算出） ・ 1 月末で 298 件実施。2 月 50 件程。利用登録者 160 名（半数利用、半数備え） 運転手は年末まで 28 名。一本釣りで 3 名追加。 ・ 地区社協活動への理解と PR⇒年に 1・2 回全戸配布、ちょいボラ推進 ・ 4 月から家事支援利用料変更⇒3 つのランクに分ける ・ 草取り、移動支援⇒30 分 500 円、他のもの 300 円、ごみ出し 1 回 200 円 ・ 単身者が増え、需要も増えている＝みんなで助け合える地域にしていきたい ②第 1 層協議体会議について（地域支援課 SC） ・ 協議体圏域（三方原・都田・新都田）でもアンケート調査を実施したことも踏まえ、好事例ということで報告。他地区も同じような課題が間違いなくあるので、活用できるパッケージ化、市社協や行政からの必要な支援について協議している。 ・ 一層協議体委員の意見として、家事支援立ち上げの際に住民に対してアンケートニーズ調査をしっかりと行った。アンケート調査の中から移動に困っている方（通院や買物等）がいることを把握した上で行っているの、利用者の増加に繋がっているのではないかと。三方原地区社協が自治会にも丁寧に説明。以上が大事なポイントだった。 ③令和6年度 第2回協議体会議の振り返り ＊11.14開催報告書参照 ④福祉のことを地域に根づかせるための「啓発イベント」について地域住民に興味を持たせる手段や方法などを話し合う I）グループワーク 三方原地区、都田地区、新都田地区に分かれて話し合う II）発表（情報共有）	

【三方原地区】

- ・啓発チラシは回覧より全戸配布にする
- ・チーム三方原でチラシ作成やホームページ運営の仕組みができる方向へ
- ・地域の活動団体や福祉関係が相互に協力し合うような体制づくり
- ・三方原圏域協議体でライングループを作り情報共有へ

【都田地区】

- ・マスコットキャラクターを作成、各イベントで周知を図るといいのではないかな
- ・子どもをターゲットにした企画なら、まだ福祉に関心の薄い保護者も来るのではないかな
- ・空き家を古民家カフェとして活用し、そこでボランティア募集や福祉イベントの周知をする

【新都田】

- ・企業に場所を借りて何かイベントを考えてみる。住民参加ができるような何かがあるといい
- ・広報に関する展示物について、協働センターを上手に活用できるのではないかな
- ・小、中学生への介入に福祉教育を使って子どもたちに関心を持てるようにしていく

4. お知らせ

- ・地域包括支援センター三方原 介護の出張相談説明会の実施
12/2（月）豊岡町の櫛エヌエスティー社員研修「親の介護」参加者17名
- ・市社協「地域福祉セミナー」開催のお知らせ

5. 令和7年度開催（案）について

受託内容が確定次第、日程調整を行う

5 今後の見通し・
必要な対応

三方原地区の移送支援サービスについては、引き続き支援を継続しつつ協議体の中でも現況など情報共有していく。

地域に福祉を根付かせるために、今後は各グループから出た意見やアイデアの中から、地域で実現可能な取組を精査して実施に向けて話し合っていきたい。

必要に応じて欄を広げてください。